

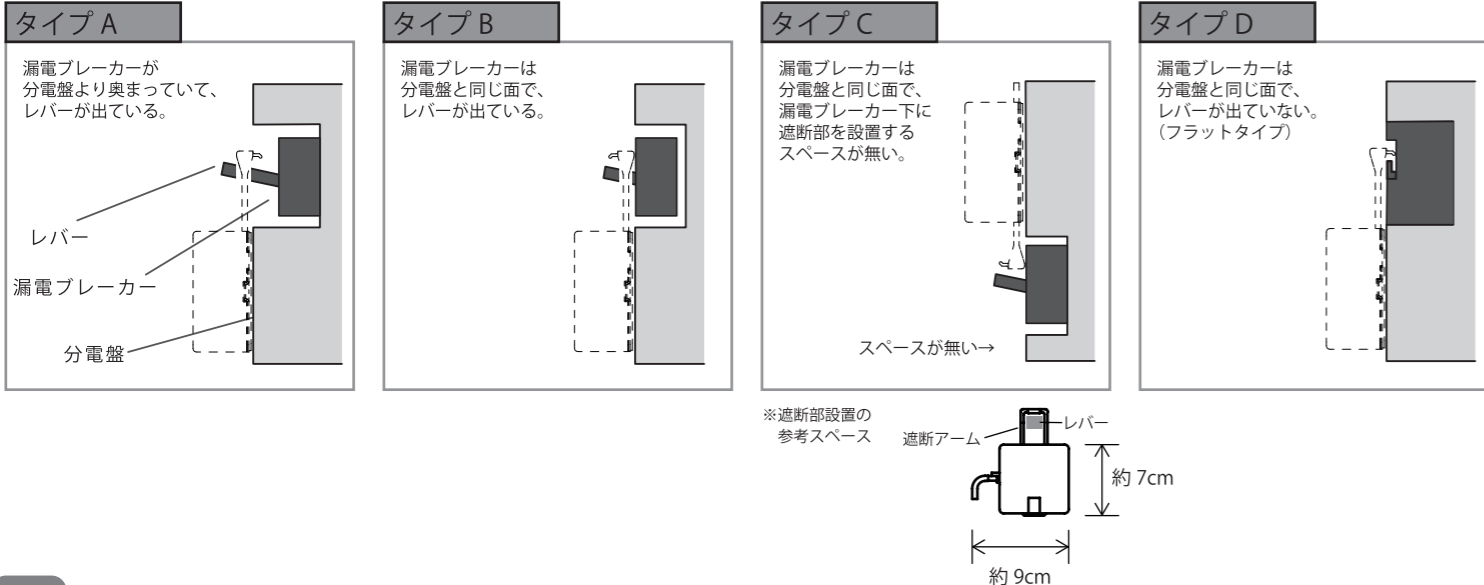
10 設置について

別紙の取扱説明書の「10. 設置について」の続きです。

手順 1 遮断部の設置方法

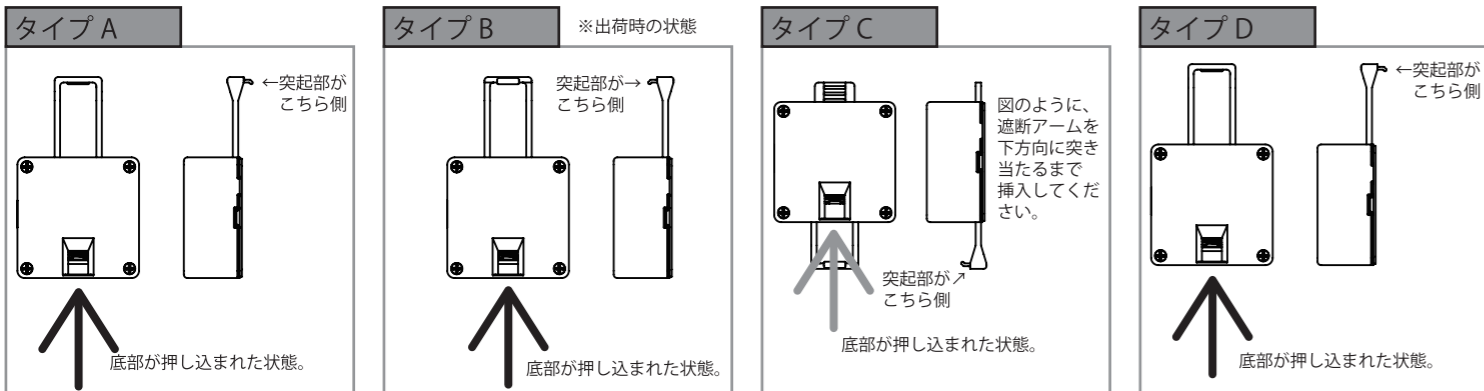
1-1 遮断部の設置位置を決める

取り付ける分電盤の形状を下記から選択してください。

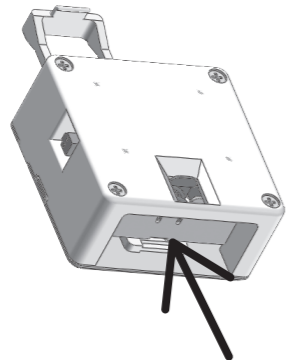


1-2 遮断アームの位置変更

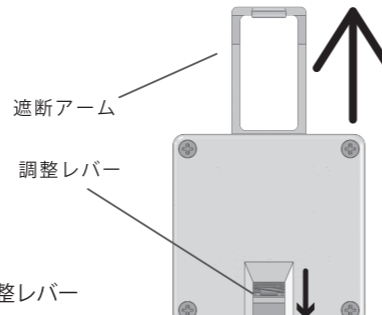
下記を参考に、各タイプ別の遮断アームの位置に変更をしてください。



①右図のように遮断部の底を奥まで押し込んだ状態にしてください。
※底部が押し込まれていないと、遮断アームの位置変更ができません。



②調整レバーを下方へ押し下げながら、遮断アームを矢印の向きに引き上げて位置を調整してください。
遮断アームの向きを変える場合は、一度遮断アームを抜き、差し直してください。



③希望の位置に調整したら、調整レバーを離してください。
軽く遮断アームを引っ張り、動かないことを確認してください。

注意
左図（遮断部裏面の開口部）の破線部分には指を入れないでください。ケガの原因となります。

注意
●調整した後は必ずアームが動かないことを確認してください。アームがしっかりと固定されていない場合、作業中に遮断部が落下し、ケガや故障の原因となります。

1-3 遮断部の貼付位置を決める

タイプ A タイプ B タイプ D

①取り付ける漏電ブレーカーのレバーを上へ上げ、通電状態であることを確認してください。

②設置台紙を右図のように折ってください。

③下図のように、②で折った設置台紙を、台紙の出っ張りが遮断アームの先端部に合うようにはめ込んでください。

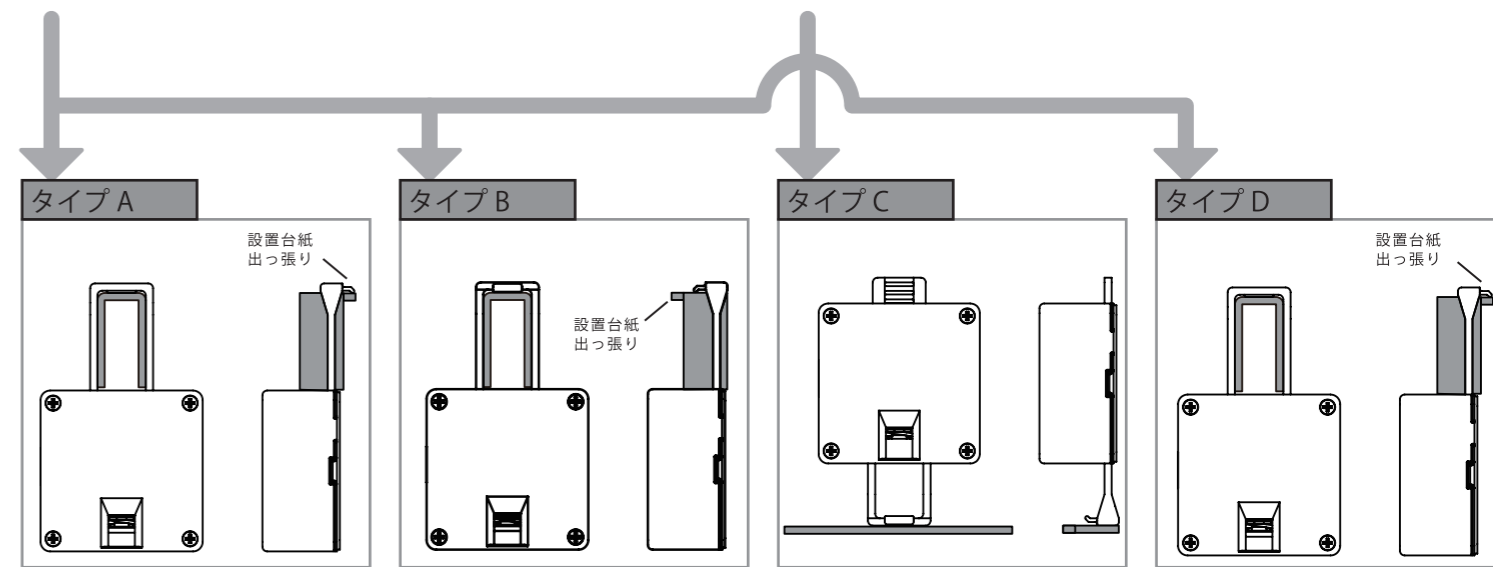
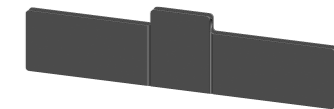


タイプ C

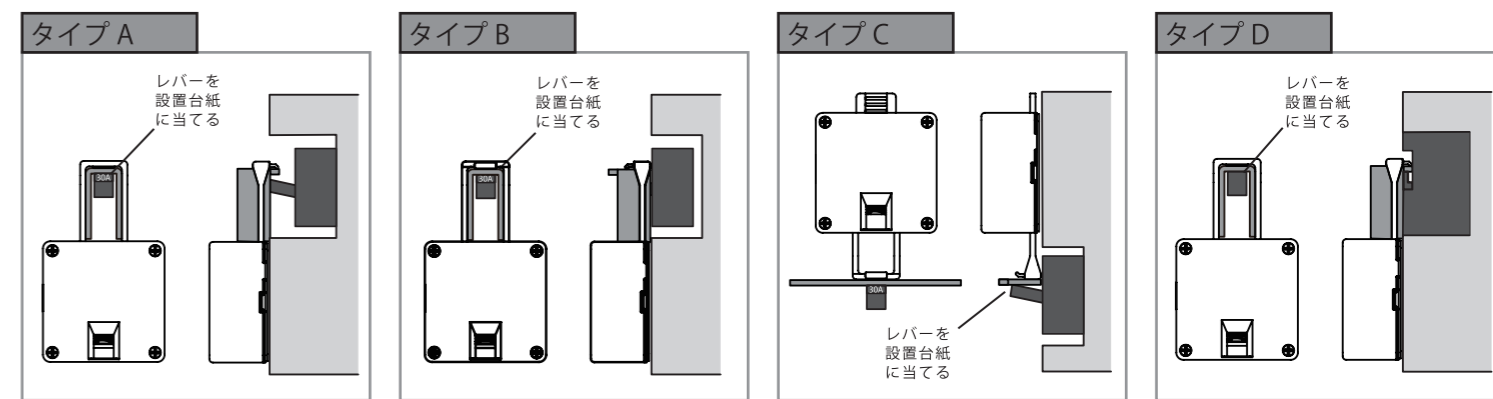
①取り付ける漏電ブレーカーのレバーを上へ上げ、通電状態であることを確認してください。

②設置台紙は右図のように折らずに使います。

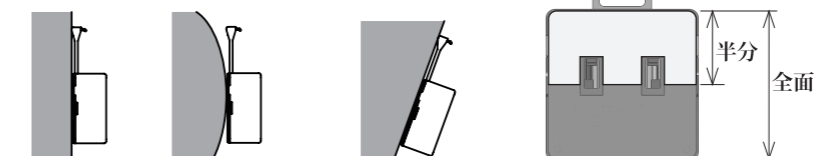
③下図のように、②の状態の設置台紙を、④でブレーカーのレバーとの間に挟みます。



④遮断部を下図のようにレバーに当たる位置ではめ、両面テープのはくり紙をはがさずに貼付位置を確認してください。
この時、接着場所は曲面や下向きに傾斜した場所を避け、接着面の半分以上が分電盤のパネルに貼り付けられるように、遮断アームの位置を調整してください。（「1-2. 遮断アームの位置変更」参照）



○：取付可 ×：曲面 ×：下向きに傾斜



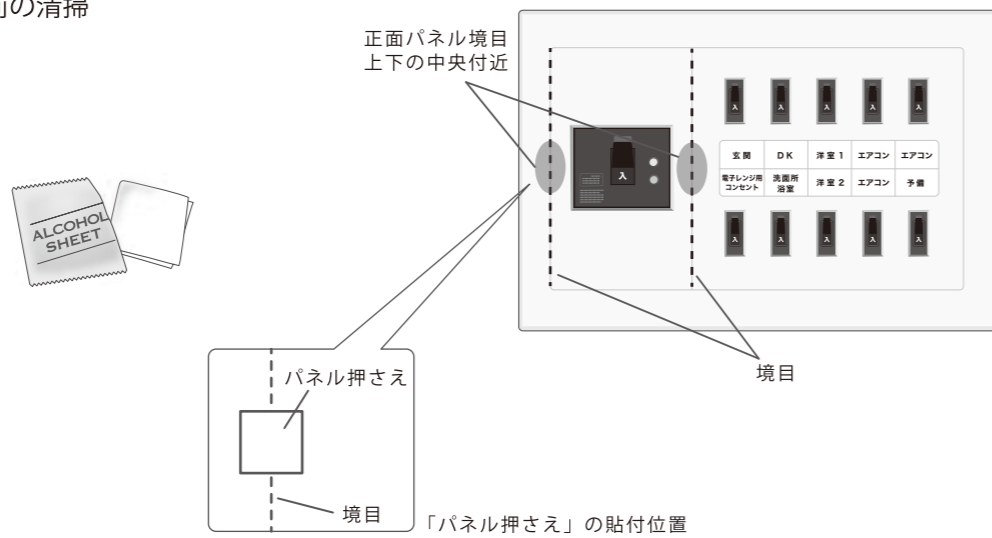
注意
遮断部の接着場所は曲面や下向きに傾斜した場所を避け、接着面の半分以上が分電盤のパネルに貼り付けられるようにしないと、落下するおそれがあります。

1-4 分電盤パネルの補強と貼り付ける前の清掃

①分電盤の正面パネルの補強をします。右図のように正面パネルの境目がある分電盤については、正面パネルの境目の、上下の中央付近（分電盤のシールがある場合は避けて）に2ヶ所の「パネル押さえ」を貼付位置を決めます。

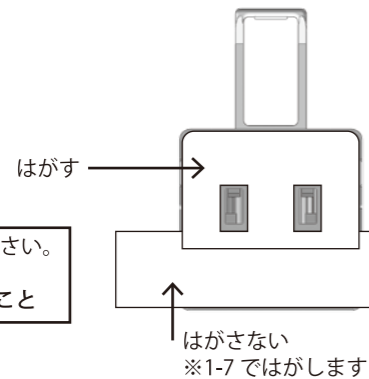
②「遮断部」と「パネル押さえ」の貼付位置が決まったら、乾いた布で拭いてホコリを取り除きます。付属のアルコールシートを用いて貼付部分をきれいにしてください。
※アルコールが乾くまで貼り付けしないでください。
※アルコールシートはエタノールを使用しておりますので、肌が弱い方はご注意ください。

③「パネル押さえ」の両面テープのはく離紙をはがし貼り付けます。



1-5 はく離紙をはがす

遮断部裏面の両面テープを手前に向け、右図のように上部の小さいはく離紙をはがしてください。



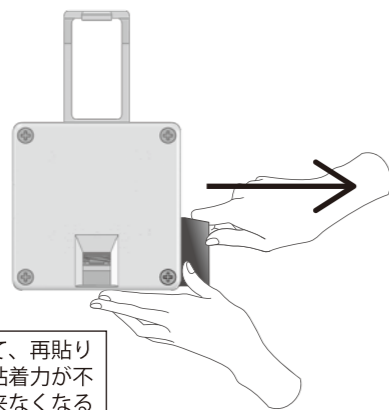
下記を確認のうえ、実施してください。
・底部が押し込まれていること
・アームが正しく設置されていること

1-6 仮固定

1-3-④の位置に合わせて仮固定（貼り付け）します。分電盤に軽く押し当てて貼り付けてください。

1-7 本固定

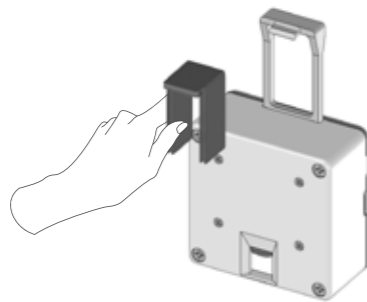
右側から出ているはく離紙を外側へ右図のように引っ張って、はがしてください。その後、遮断部の中央部分を5回ほど強く分電盤に押し当ててください。



注意 ●本固定後にはがして、再貼り付けは出来ません。粘着力が不足し、正しく固定出来なくなるおそれがあります。

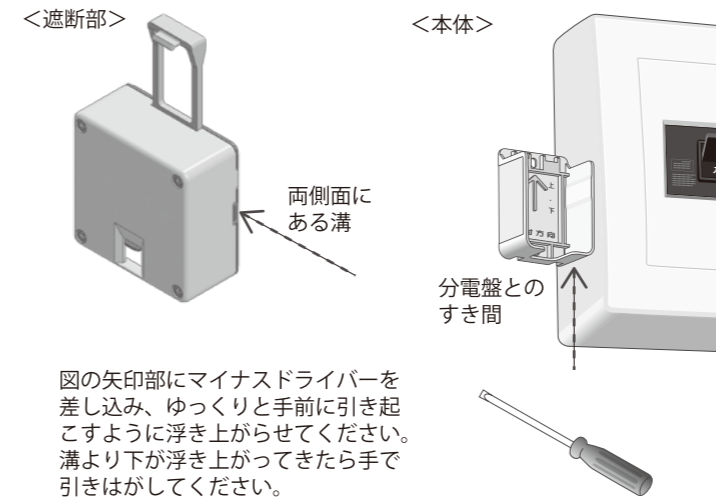
1-8 設置台紙を外す

遮断アームについている設置台紙を抜き取ります。強く引っ張ると、位置が変わるまたはブレーカーを遮断してしまう可能性がありますので、ゆっくり引っ張ってください。
※遮断部だけでは本製品は動作しません。必ず本体と接続してください。



引き続き、取扱説明書「10. 設置について」に戻り、**手順 2 本体の設置方法** を実施してください

13 取り外し方法



図の矢印部にマイナスドライバーを差し込み、ゆっくりと手前に引き起こすように浮き上がらせてください。溝より下が浮き上がってきたら手で引きはがしてください。

注意 ●取り外す際は本製品を落下させないようにゆっくりと引き起こしてください。本製品が落下すると、破損またはケガの原因となります。
●上記の方法以外での取り外しは行わないでください。分電盤ならびに、本製品の破損またはケガの原因となります。

14 お手入れ方法

1年に1度は水で薄めた中性洗剤に浸して十分絞った布で、本体・遮断部の汚れを拭き取ってください。

警告 ●お手入れは、安定した台に乗った中性洗剤に浸して作業を行ってください。転倒・落下などによりケガをする恐れがあります。
●水洗いをしないでください。内部に水などが入らないようにしてください。

注意 ●ベンジン・シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
●機器の表面に傷が付く恐れがありますので、柔らかい布でやさしく拭いてください。

15 廃棄について

本体・遮断部・リチウム電池（水銀は含まれていません）・ケーブルの廃棄については、各市町村で定められた方法に従って廃棄してください。※『電池切れお知らせ機能』が作動し電池切れとなった場合、リチウム電池のみを交換して使用する事は出来ません。本体を交換するか、使用を中止してください。
※廃棄する際はケーブル・リチウム電池は外してください。

16 故障かも？と思ったら…

症状	原因	処置
本体を揺らすと「カタカタ」という音がする。	地震センサの音です。	地震センサを内蔵していますので、本体を揺らすと音がします。不良ではありませんのでご了承ください。
約1分間隔で「ピピピピ」と鳴り、赤色警告灯が点滅している。	リチウム電池の寿命（本体の交換時期）です。	速やかに新しい機器と交換してください。（リチウム電池は交換できません）一時的に警報音を停めるには、リセットボタンを押してください。約2週間後にブレーカーを遮断します（「6. 電池切れお知らせ機能」で出荷時設定の場合）。
リセットボタンを押しても電池切れお知らせが一時停止しない。	リチウム電池切れによるブレーカー遮断まで24時間を切っています。	速やかに新しい機器と交換してください。遮断を防ぐには、ケーブルを抜き、リチウム電池のリード線を抜いてください。
本体の電池のリード線を挿し込むとブザーが鳴った。	地震センサが反応しています。	「10. 設置について」の手順2を参照し、本体をホルダーに装着後、リセットボタンにてブザーを停止してください。
本体と遮断部の接続をした後にリセットボタンを押してブザーを停止したが、再度ブザーが鳴りだした。	地震センサが安定するまでの時間が足りなかったことが考えられます。 本体の設置が傾いている可能性があります。	本体と遮断部の接続後、20秒程度待つてから、再度リセットボタンを押して停止してください。 「10. 設置について」の手順2を参照し、本体が正しく設置されているか確認してください。
テストボタンを押しても動作しない。	リチウム電池またはケーブルのコネクタがしっかり差し込まれていないことが考えられます。 テストボタンの長押しができていないことが考えられます。 遮断部の底部が押し込まれていないことが考えられます。 リチウム電池の電池切れが考えられます。	しっかりとコネクタが差し込まれているか確認してください。 3秒以上の長押しをしてください。 再貼り付けが必要になりますので、お客様相談窓口までお問い合わせください。 速やかに新しい機器と交換してください。
地震でないのにブザーが鳴り、感震ライトが点灯し遮断する。	地震以外の揺れや傾斜を検知しています。	リセットボタンを押し、ブザーとライトを消してください。繰り返し発生する場合は、取り付け方が正しいか（「10. 設置について」参照）を確認してください。再貼り付けが必要な場合は、お客様相談窓口までお問い合わせください。
本体は動作しているが、遮断が動作しない。	本体または遮断部のケーブルのコネクタがしっかり差し込まれていないことが考えられます。	しっかりとケーブルが差し込まれているか確認してください。
遮断部の底面を押し上げて、セットすることが出来ない。	本体の異常の可能性がります。	安全を確認の上で、ケーブルを抜いて遮断部の底面を押し上げてセットし、ブレーカーを復旧させてください。その後、お客様相談窓口までお問い合わせください。

※上記項目に該当しない場合や解決できない場合は、お客様相談窓口までお問い合わせください。